

領域 10 インフォーマルミーティング議事録

司会進行：寺内先生（領域代表）、書記：森川（連絡委員）

日時：2021年3月14日（日）18：00-18：55

会場：オンライン（zoom）

出席者：19名（寺内、李、符、安井、川名、秋葉、齋藤、伊藤、佐藤、小野、西谷、石井、竹下、田口、田中、土田、筒井、栗原、森川 順不動、敬称略）

1. 領域委員会報告

2020/11/26 にオンラインにて開催された領域委員会に関する報告がされた。

（李副代表が代理出席）年次大会での招待講演、シンポジウム等の審議について、大会の英語化について、今後のオンライン開催について報告された。

今後のオンライン開催について意見交換を行った。抜粋を以下に記す。

「学会の楽しみが少なくなる。発表の合間での意見交換などがなくなるのはどうか。ただ年1回のオンライン開催であれば、便利ではあるので個人的には許容できる。オンラインにするとすれば、規模の大きな年次大会か。」

「誘電体分科ではコロナ後に発表件数が1/3程度に減ってしまっている。これがオンライン化によるかは分からない。発表自体はできるが、交流ができない。」

「参加者が減ってしまうのは大きなデメリット。」

「録画されるなどで未発表データを出しにくいのも一因では。これは防げない。参加者としては参加しやすいが、発表者としては微妙。学会開催は地域活性の意味もあるのでは。完全オンライン開催よりは、ハイブリッド開催の方があり得るのではないか。」

「最新の情報は出しにくい。スクリーンショットを防げないのは仕方がない。参加しやすいというのはメリット。」

「総合講演は会場の確保が問題であったが、オンラインであれば解消される。秋季大会は地方で行われるため、参加に楽しみが見出しやすい。オンライン化するのであれば年次大会が妥当ではないか。」

ここで参加者に1年に1回のオンライン開催であれば許容かを問い、8名/19名は許容とした。これを後日本部に連絡する。

学会の英語対応について意見交換を行った。抜粋を以下に記す。

「留学生や外国人研究者への配慮として、海外研究者招聘を核としたシンポジウムならば人が集まるので実質的ではないか。海外からの通常参加者が増加するかは疑問。発表スライドを英語にするのは学生に限らずいいことではないか。概要集を英語で書くことは、学生発表のハードルを上げてしまうのでは。」

「私学の物理を専門としていない学生には厳しさが増してしまう。優秀な学生には適していると思う。」

「国際学会にしたいのか、国内学会だが英語の講演を認める、海外の研究者の参加を歓迎という形にしたいのか。を学会として明確にすべき。」

「顕微鏡学会では、タイトルと図脚注は英語記載のスタイル。」

「留学生もいるので配慮が必要。応物学会では英語セッションがある。そういうやり方はどうか。」

「応物学会では、領域ごとに英語セッションをもつかどうかを決めている。例えばスピントロニクスではすべて英語。誘電体では英語セッションはない。分野が異なるものをまとめた英語セッションはない。せめて図のキャプションぐらいは英語がいいのでは。」

「英語対応にすると事務局は大変になる。」

「留学生が発表したが、英語の説明がないので不便。」

「学会の案内等、すべてに英語を加える必要がある。事務が大変。大学も同様な点で困っている。留学生を呼ぶものの、事務からの情報がすべて日本語しかなかったりする。スライドの英語化、図のキャプションは英語ぐらいが妥当ではないか。国内会議であるので、完全英語化は難しい。」

「英語でのやりとり、発表は歓迎。海外からの参加の間口を広げることに反対はない。ただ、現地だけの問題ではなく、事務局に多大なコストがかかる。そこを決めてからでないと、中途半端になってしまうのではないか。学会の開催形態をきちんと議論すべきではないか。」

2. 賞の推薦依頼状況等

若手奨励賞の選考結果について報告があった。領域10からは九大 斎藤光会員と量研機構 押目典宏会員が全会一致で受賞し、今年次大会にて受賞記念講演を行った旨が報告された。論文賞、米沢富美子賞については申請がなかった

ことが報告された。

3. 学生優秀発表賞について

今年次大会にて各分科に申請された件数、状況が報告された。

4. 第 77～78 期代議員候補者の推薦について

次期代議員について、領域 10 からの推薦および各分科からの選出について確認された。

誘電体分科：黒岩芳弘 会員（広島大・理）→領域推薦

格子欠陥・ナノ構造分科：田口昇 会員（産総研・関西センター）→領域推薦

フォノン分科：吉矢真人 会員（大阪大・工）→領域推薦

X線・粒子線分科：中島健次 会員（JAEA・J-PARK）→立候補

5. 代表、副代表、運営委員

2021 年度の代表、副代表、運営委員、連絡委員が確認された。

次々期運営委員の推薦状況を確認し、

誘電体分科の次々期運営委員：物材機構 清水 荘雄先生

X線・粒子線分科電子線サブ分科の次々期運営委員：九大 斉藤光先生

フォノン分科の次々期運営委員：理研 佐藤雄貴先生

が承認された。格子欠陥分科については期日までに選出が求められる。

（後日、格子欠陥分科の次々期運営委員は熊本大 松川義孝先生に決まりました。）

その他

概要提出率の報告がされた。

今回領域 10 では大幅に低下しているが原因は不明。

「どこの分科が下がったかといった情報はあるのか？」

現時点では詳細情報はなし。